

若者の消費者問題シンポジウム 身近な危険を共に考える。報告

日時：2011年11月6日(日) 13:00~17:00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎 5階

参加者：166名

主催：若者の消費者問題を考える実行委員会

東京都生活協同組合連合会

全国大学生生活協同組合連合会東京ブロック



<スケジュール>

1. 開会挨拶 佐藤 直樹 (東京都消費生活総合センター所長)
伊野瀬 十三 (東京都生活協同組合連合会会長)
2. メインシンポジウム
講師 森永 卓郎氏 (経済アナリスト・独協大学教授)
3. 分科会講師紹介
4. 分科会
 - A 消費者被害から見た日本の貧困、無縁社会 講師 (湯浅 誠氏/板垣淑子氏)
 - B 多重債務の落とし穴 講師 (勝又 長生氏)
 - C ネットワークビジネスの落とし穴 講師 (櫻井 義秀氏)
 - D 就職活動の落とし穴 講師 (NPO法人POSSE)

メインシンポジウム『勝ち組でも負け組でもない人生』

東日本大震災は原発事故を伴い、日本経済に大きな打撃を与えている。これまでの例からも、震災から数年間は復興需要により景気は維持されるが、必ず息切れし、景気は悪化の一途をたどる。そんな状況のなか、今の政府は所得税の増税を始め、消費税率も段階的に上げようとしているため、おそらく今後は急激なデフレがやってくることは間違いない。デフレのときは不動産や企業の価値が下がるため、富裕層に有利に働き、逆に一般の国民は深刻な状態に陥る。現在のような市場原理主義や金融資本主義が横行する社会では、強者(勝ち組)はますます強くなり、弱者(負け組)はどんどん弱くなる。自分たちさえよければいいというのが、いわゆる新自由主義の考え方なのだ。

新自由主義とは、1980年代にイギリスのサッチャー政権が導入した構造改革で、これがアメリカ渡って日本の自民党政権を経て小泉総理に引き継がれた。その特徴は、市場原理主義(規制緩和や民営化)と小さな政府(社会保障の削減)、そして金持ち優遇対策で、お金がすべての風潮はここから始まったといえる。小泉内閣のときに実施した構造改革は郵政や道路公団の民営化といった規制緩和とともに、社会保障の大幅なカットにより、非正規社員の増加など格差社会を生み出したのである。やさしい人が支え合う時代から、金を稼げば何をやってもよい時代へと変化した日本だが、本当にこれでいいのだろうか。

日本はイタリアに見習うべきだと思う。日本とイタリアは風土、中小企業の多さ、高齢化が進んでいることなど共通点が多い。しかし、気質は全く違う。イタリア人は陽気で逆境でも暗くならない。日本人のように暗くなっていても状況は決してよくなるから、明るく楽しく前向きに生きよう。日本よりも労働時間が短いイタリアに一人当たりGDPで負けてしまった現状を認識しなくてはいけない。イタリア企業の他国(特に中国)と競合しないモノ作りや、自国の製品に絶対の自信を持っている点など見習うべき点は多い。

人を騙してお金を奪い取る社会より、ワクワク楽しい人生のほうがどんなに素敵なことか。「勝ち組」でも「負け組」でもない、自分なりの人生を送るために、明るく楽しく生活し、真面目に働いて経済を回すことを考えよう。



分科会

A. 消費者被害から見た日本の貧困、無縁社会 ～人として当たり前のように生きていけるように～ 参加58名

講師 湯浅 誠氏（内閣府参与、NPO法人もやい事務局次長）

板垣 淑子氏（NHK「無縁社会」番組ディレクター）

板垣氏より、「無縁社会」の広がりが深刻化している。「地縁」「社縁」なくなり弱者ほど孤立化し、もともと「絆」のない人は「絆」を強められない現状の中、無縁死が増えていっている。



湯浅氏より、現役世代の社会保障はないといってもいい状況で、企業と家族で見ていたことが無理になっていく。国も含めた3つの傘がしぼんでいき、社会保障が広がらない中、ワーキングプアになり生活保護が増えていく。傘の内と外の二極化が進み二者は交わらなくなる。貧困の連鎖を断ち切るためにも内と外の差をゆるやかにして両者を階段でつなげたい。自分の居場所を肯定できるようにしたい。

いくつかの質疑の後、板垣氏より、今の痛みを忘れずに今後もメディアの立場で応援したい。

湯浅氏より、自分のいる場所をきちんと理解し認識し考える時間を持つ。生活者としての教育と消費者教育を一緒に考えていくことが大切。とのまとめがあった。

B. 多重債務の落とし穴 ～奨学金、借金、お金の借り方、返し方～ 参加 13名

講師 勝又 長生氏（元（社）全国労働金庫協会多重債務相談デスク／消費生活コンサルタント）



大学生が陥りやすい借金についての話からクレジットカードの使い方、留意点など身近な事例を元にDVDも交えてお話された。奨学金は借金であるという認識を持ち、将来返済していくのだという自覚を持つことが必要。安易なクレジットカードの作成や使用には十分に注意し、契約というものを理解してカードを持つことが大切。

C. ネットワークビジネスの落とし穴 ～学生への注意・大学側の心構え～ 参加14名

講師 櫻井 義秀氏（北海道大学大学院教授／若者の消費者被害を研究）

講演とグループワーク、発表とまとめという構成で参加者との意見交流を交えての分科会となった。講演ではオウムなどの新興宗教や自己啓発セミナーなどカルトに勧誘されるプロセスと要因から、勧誘されないため普段から心がけておくことなどのお話。グループワークでは「問題」「対応策」「どんなアドバイスをすればいいか」について議論。グループごとの発表ではさまざまな事例からの話しあいでお互いの気づきにつながった。



D. 就職活動の落とし穴 ～若者の労働相談から見てきたこと～ 参加28名

講師 NPO法人POSSE（労働相談を中心に若者の「働くこと」に関する様々な問題に取り組んでいる。）



スライド発表と班別ワークによる2部構成。スライドではPOSSEが受けた相談を基に、若い正社員からの相談が増えている事例とそこから読み取れることと、就活の現状などが話された。読み取れることの中からパワハラやメンタルヘルスの問題、若者を使い捨てる状況などが浮かんできた。会社が絶対ではないこと、一人で抱え込まないことなどの就職に関する心構えがまとめられた。次に労働法の使い道として、不当な事に対してきちんと向き合うことと法律で戦うことを知り、そのための対応のしかた

を学んだ。班別ワークでは発表に対する質問等を自由に意見交換する形で、具体的な疑問や知りたいことなどを出し合い交流した。